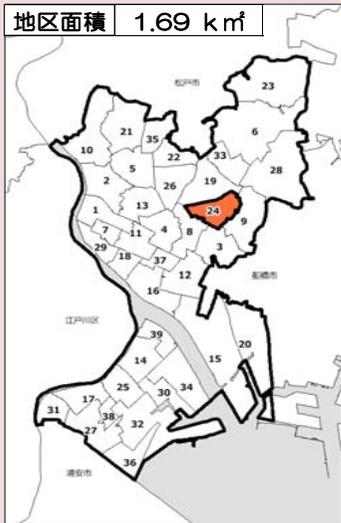


24 北方小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

- ◆位置
北方小学校は市の中央よりやや東部に位置し、地区の北側は派川大柏川、西側は真間川に面しています。また、地区内に大柏川が横断しています。
- ◆地形・土地利用
地形は、主に氾濫平野で構成されています。地区の西側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。
- ◆都市基盤
地区内の南側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。また、南北にかけて都市計画道路3・4・18号が通っています。地区内には派川大柏川浄化施設、大柏川第一調節池緑地が立地しています。地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスや、市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

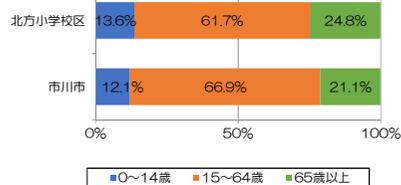
◆人口

年齢別割合	北方小学校区	市川市	割合*
人口総数	7,303人	487,621人	1.5%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



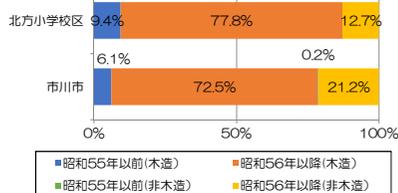
◆建物

構造別割合	北方小学校区	市川市	割合*
建物総数	2,344棟	114,958棟	2.0%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



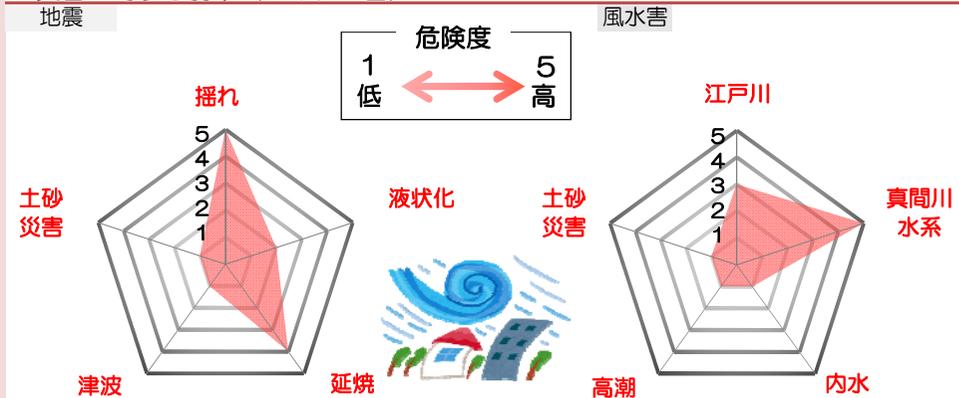
地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや低いです。また、木造建物が多い地区となっています。

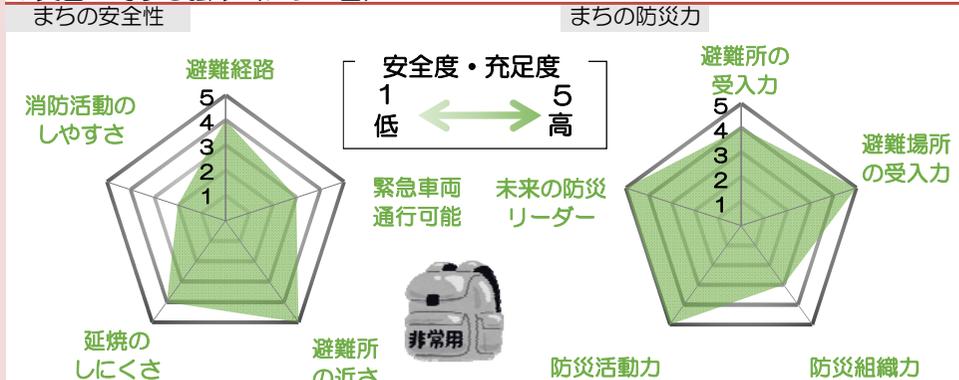
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

北方小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れや延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、真間川や派川大柏川に面し、地区内に大柏川が流れていることから、真間川水系の氾濫による浸水の危険性が高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さは高い傾向にあるものの、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難場所・避難所の受入力や防災活動力は高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
北方小学校	-		
市川学園	-		
市川学園（第1グランド等）	-		

◆避難場所

名称
北方小学校
市川学園
市川学園（第1グランド等）

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	なし
			関連施設	なし
			-	-
			-	-

要配慮者利用施設（民設）
6



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	北方小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	3.5%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	16.1%	16.0%
	焼失棟数の割合	4.2%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	1.3%	0.9%
	避難者の割合	7.4%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	北方小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	56.4%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	73.7%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	0.0%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物や新耐震基準前の建物が多いことから、建物被害はやや多い傾向となっています。また、人的被害については死者、避難数はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや多くなっています。一方で、風水害については、真間川や大柏川、派川大柏川の氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較すると浸水棟数も多くなっています。

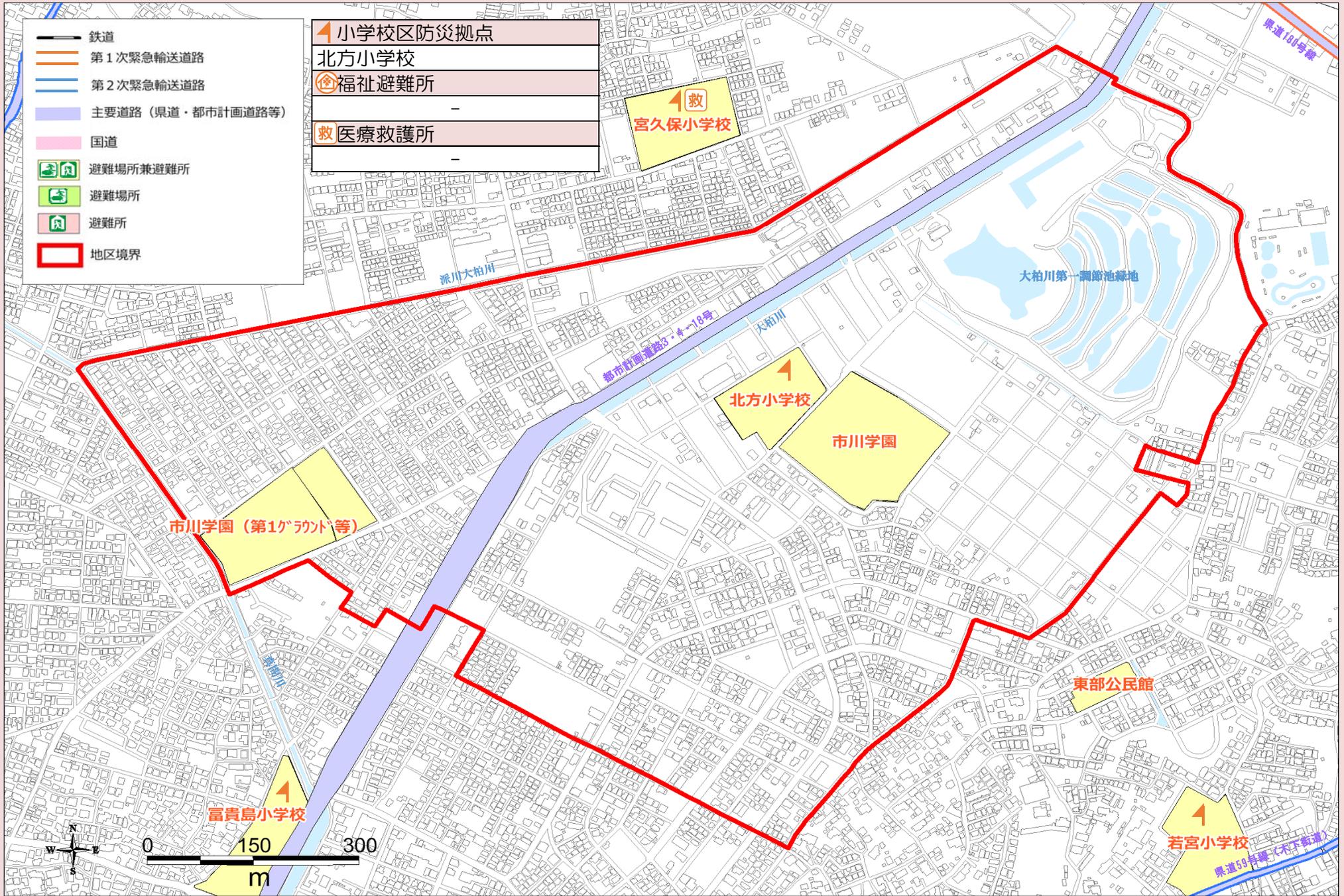
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区の一部地域において、最大震度6強の揺れが予測されており、揺れや延焼による危険性が高いことから、耐震対策や延焼対策が重要です。
風水害	地区の西側に真間川、北側に派川大柏川が面し、地区内に大柏川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、水利施設が少ないことから、消防活動がしにくく、初期消火対策等を行うことが重要です。
地域の防災力	地域の防災力については、総じて高い傾向にありますが、その中では、防災組織力が少し低いいため、防災組織結成の促進や既存組織での訓練などの取り組みが重要です。

(8) 防災対策の方向性

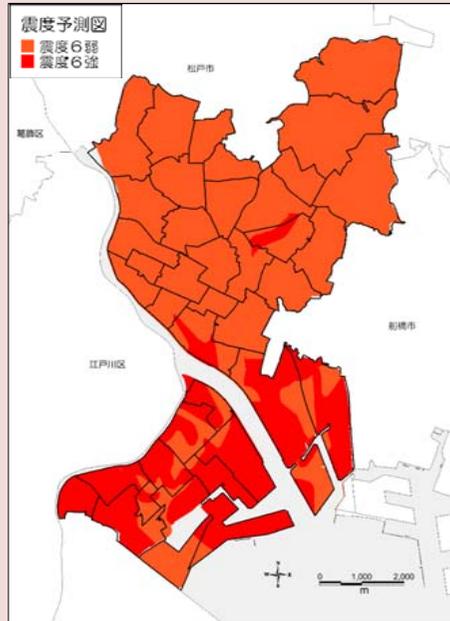
項目	取組の方向性
地域の取組	消防活動のしやすさは低く、延焼による危険性も想定されることから、市が開催する防災訓練等に積極的に参加し、地域内で火災や消火に関する知識共有を行うことが重要です。真間川水系氾濫や江戸川氾濫による浸水が想定されることから、洪水時の避難場所等も確認し、あらかじめ避難する場所について地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」等を活用し、感震ブレーカーの設置、家具の固定等、地震被害への対策を行うことが必要です。地区内では過去にも液状化による被害を受けていることから、あらかじめ減災マップ等で液状化危険度を確認しておく等の対策が必要です。また、ライフライン途絶に備え、飲料水や食糧の備蓄を行っておく必要があります。一方で、風水害に対する備えとしては、真間川及び江戸川の氾濫による危険性が考えられることから、大雨時等の避難場所や避難所について確認しておくことが必要です。また、自宅等への浸水を防ぐため、市の助成制度を活用した雨水小型貯留施設の設置や止水板の設置等の対策を行うことも効果的です。地区内にはがけ崩れ危険箇所があることから、まちあるきをする等、あらかじめ危険箇所を確認し、大雨時の土砂災害警戒情報の情報収集方法等を確認しておく必要があります。緊急車両が通行できない可能性があることから、救急医療品等あらかじめ準備しておくことが必要です。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
 震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

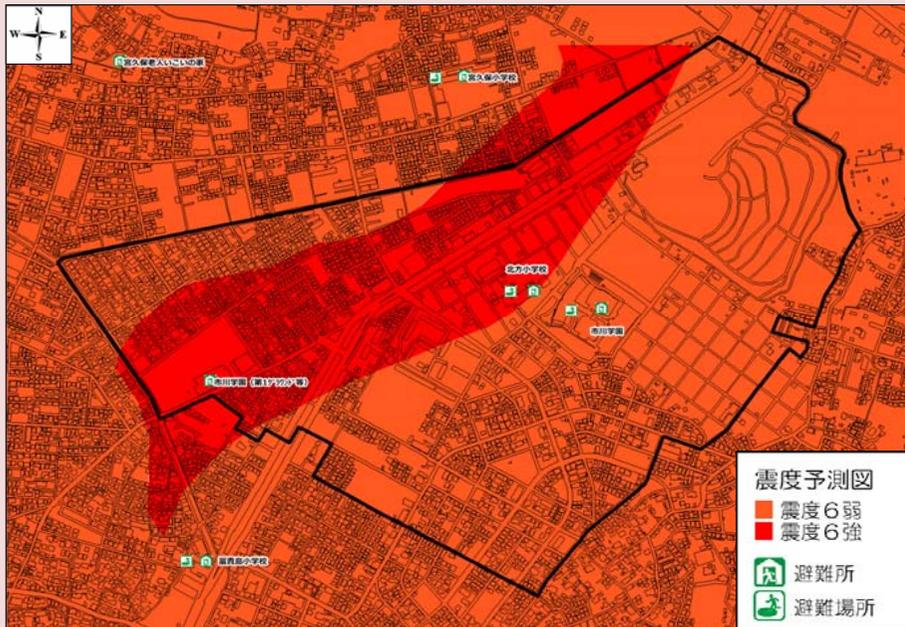
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

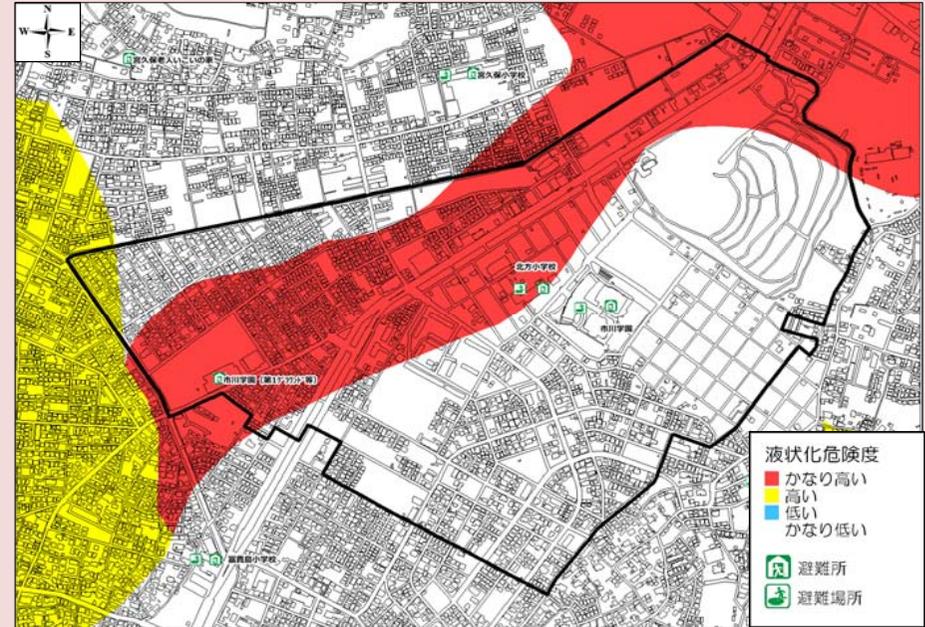


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

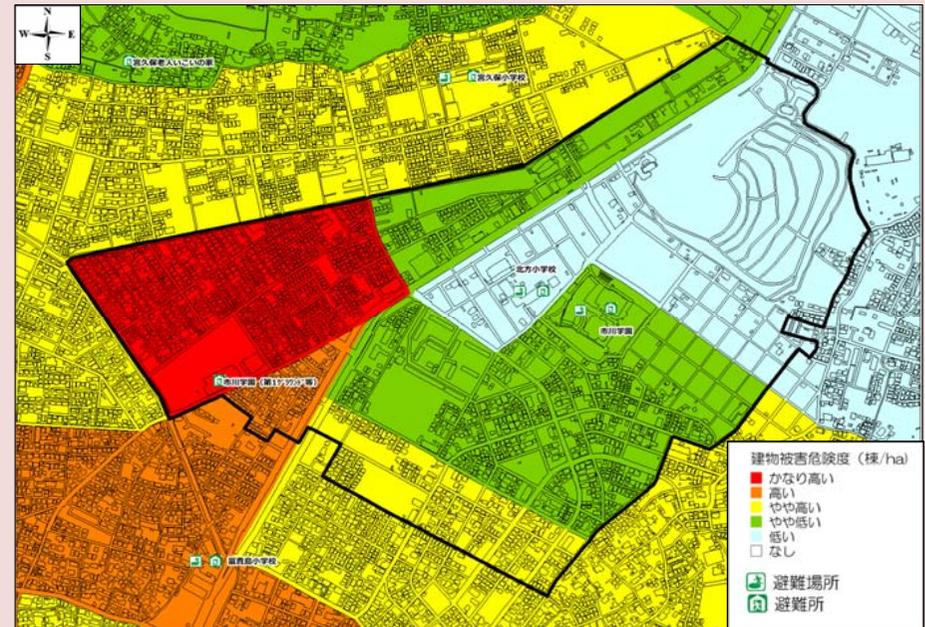
②震度分布図



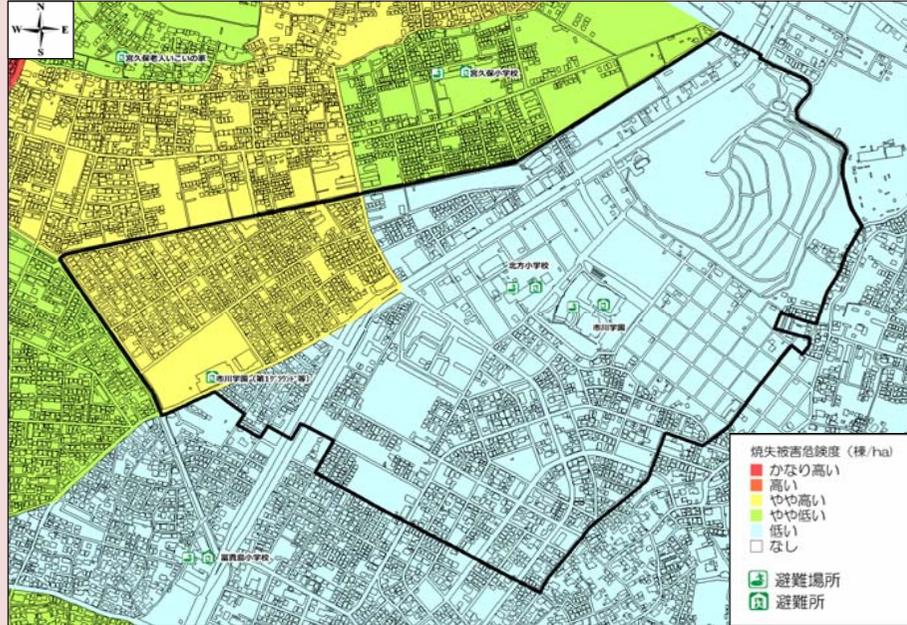
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

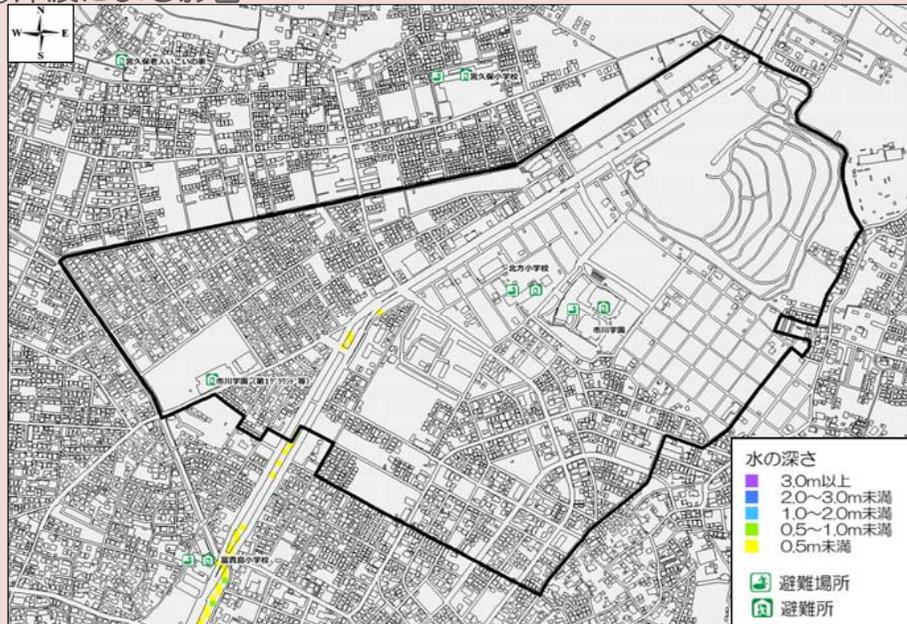
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0~3.0m未満
- 水の深さが1.0~2.0m未満
- 水の深さが0.5~1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

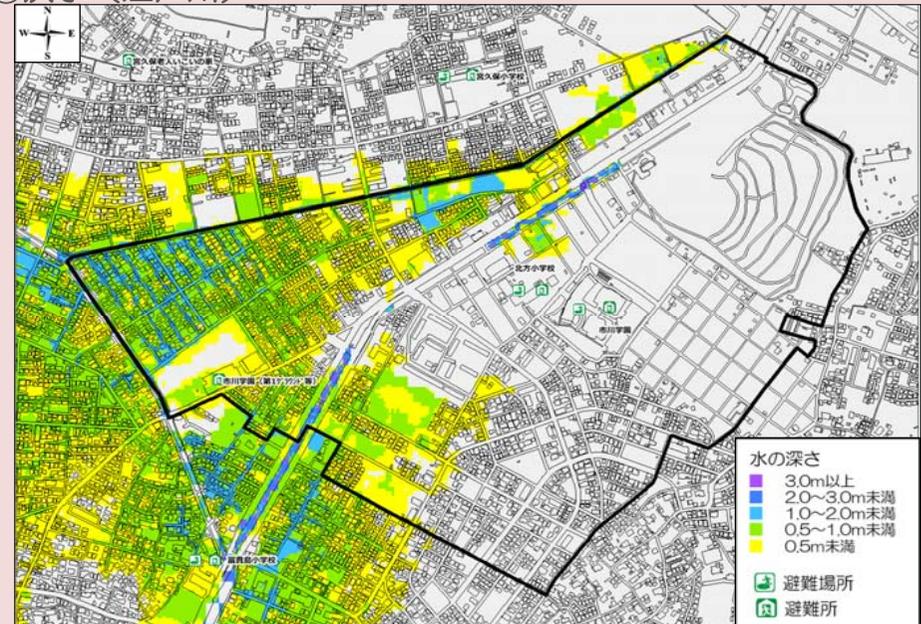
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

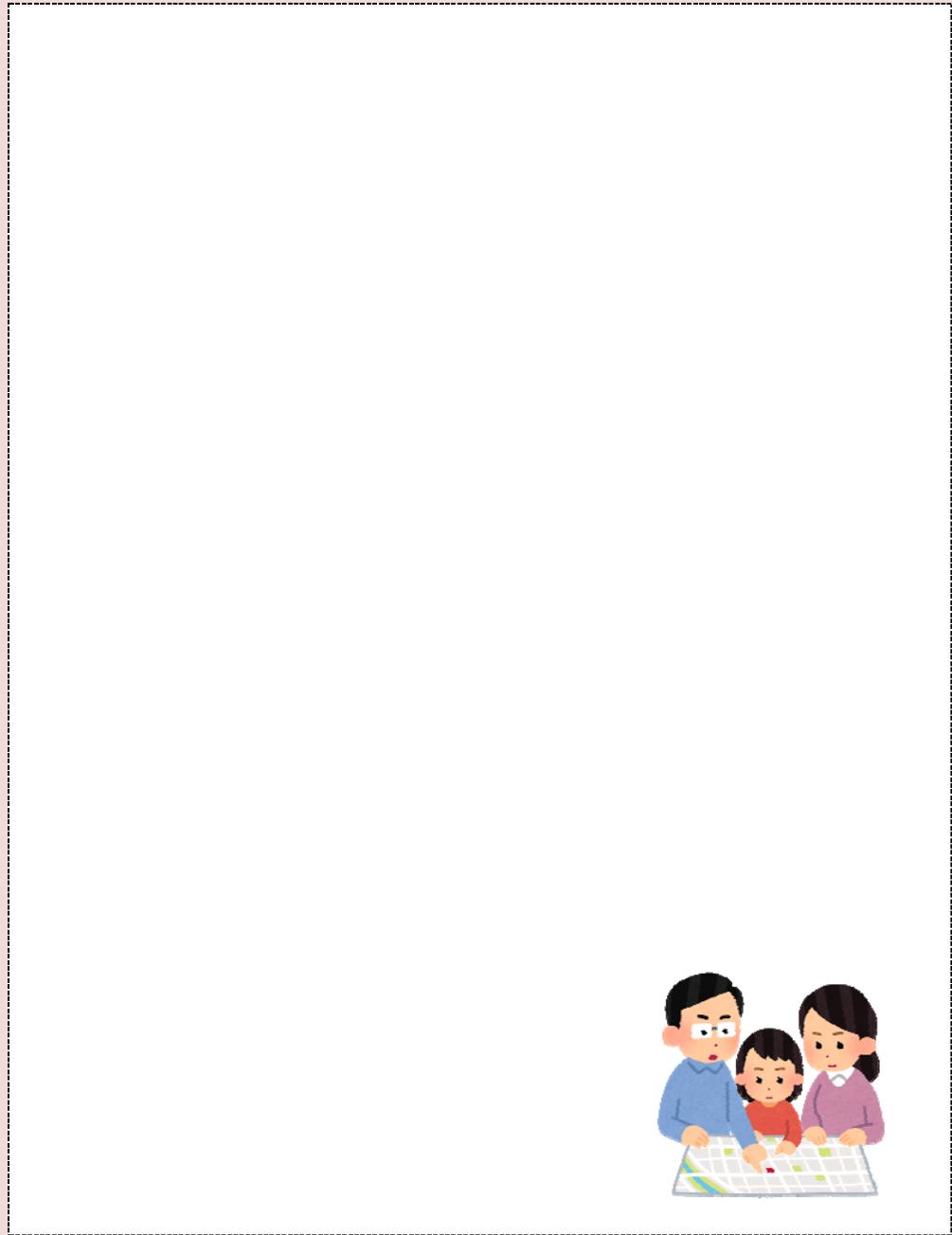
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）

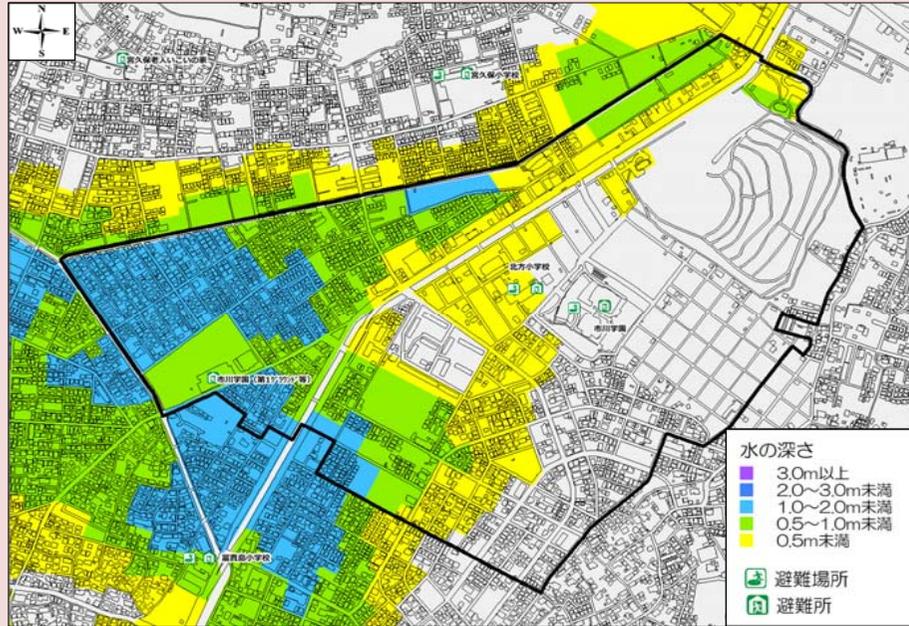


平成29年7月：国土交通省

◆メモ

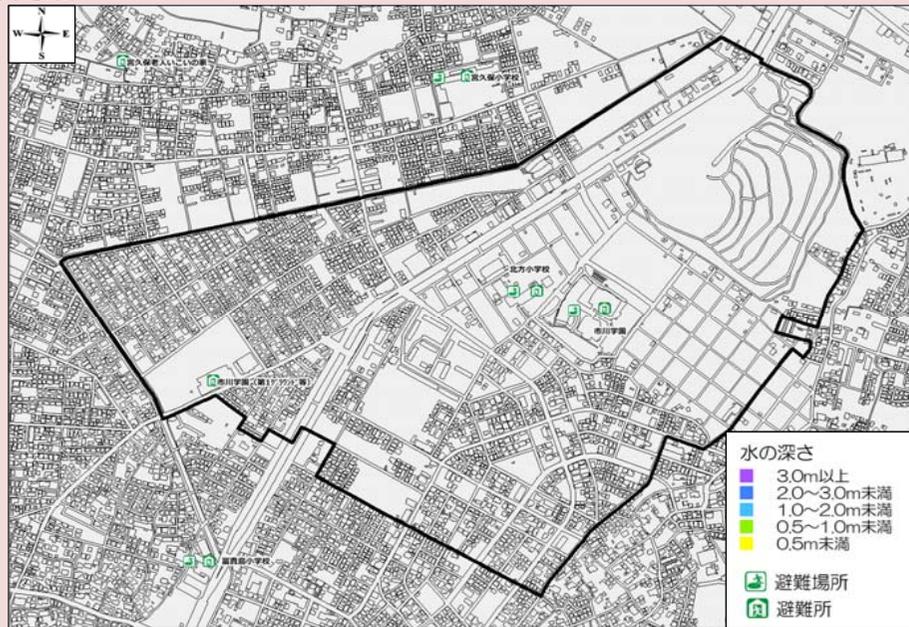


⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省